

教えて！ にちぎん

「決済」ってなに？

日本銀行で広報を担当する父を持つ大学生の知子さんと中学生の^{まなぶ}くん。今回は決済と日銀の役割について勉強します。日銀をよくご存じない方も、決済という言葉になじみがない方も、一緒に訪問した気分でお読みいただければ幸いです。より詳しい内容は、HPの「教えて！ にちぎん」をぜひご覧ください。

<http://www.boj.or.jp/oshiete/index.htm>



銀行での振り込み

ただいま。大学の授業料を払ってきました。

大学にお金を持っていったの？

そんなことしないわよ。近くの銀行で、大学が指定した銀行口座に振り込んだの。

現金をたくさん持ち歩くのは危険だし、受け取る方も大勢の学生が現金を持ってきたら大変だよ。

でも、私の銀行口座にあった預金が、別の銀行にある大学の口座に移るってちょっと不思議。私たちに見えるのはATMの画面だけだけど、お金ってどういふうに流れて行っているのかな。

そう、現金の決済と違って、預金を使った決済では、裏側でいろんなシステムが動いているんだ。じゃあ、今日は、決済と日銀の関係を説明しよう。

「決済」ってなに？

「決済」？ そもそも「決済」って何なの？

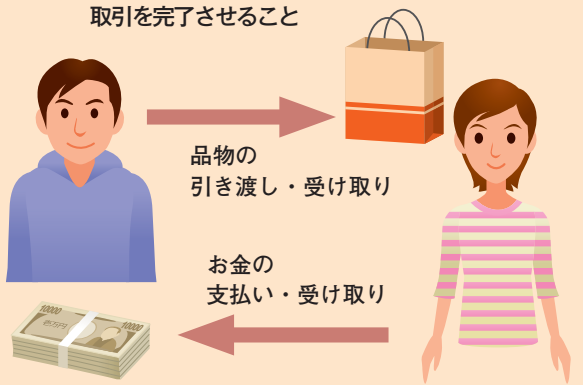
毎日、物を買ったりサービスを受けたりするよね。それに対

して、お金を払わないといけない。お金を払うことが「決済」、とまず覚えればいいよ。

もう少し言うと、物を買えば、「お金を払う」、「品物を受け取る」必要があるよね。相手からみれば「お金を受け取る」、「品物を渡す」ことになる。実際にお金や品物を渡し、取引を完了させることが「決済」だよ。だから決済は、お金を払う「資金決済」だけじゃない。例えば品物として証券を渡すときは「証券決済」と言った。

僕は物を買うときはその場でお金を払っているよ。「決済」だなんて大げさに言わなくても、何も問題ないと思うけど。

決済 = お金や品物をやり取りして、取引を完了させること



学がコンビニエンスストアで飲み物を買うときはそうだね。財布のお金と引き換えだから何の問題もないよね。でも携帯電話の料金は、使った後にひと月分まとめて支払うだろ。世の中には、物やサービスの提供と、代金の決済のタイミングがずれていることも多いんだ。それは便利なことでもあるんだ。

確かに便利だね。でも、お金や物のどっちかが後払いになると、後に受け取る人は不安だね。

そのとおり。品物を渡したのに代金を受け取れなかったり、代金を払ったのに品物を受け取れなかったりする危険があるね。なるべくその危険を小さくして、円滑に「決済」が行われるよう、いろいろな工夫がなされているんだ。

「預金」もお金と同じ

「お金を払う」と言いつき、学はお札や硬貨を思い浮かべるだろっ？ でも、普通預金や当座預金など、いつでも引き出せる預金は、お金と同じ機能を持っているよ。

さっきの授業料の振り込みがそうだね。携帯電話の料金も、銀行口座からの引き落としだね。

私がクレジットカードを使って買い物をすれば、私の普通預金の残高が減るわ。これって預金を決済のために「お金」として使った、ってことだよ。

代金を払えば、財布の中のお札や硬貨が減るけど、預金が減るって考えれば同じだね。

そうなんだ。銀行は、預金口座を通じて、個人や企業にお金の支払いや受け取りのサービス、つまり決済サービスを提供している。

ところで、日銀が「銀行の銀行」と呼ばれることは勉強したよね。日銀には金融機関が当座預金を持っていて、日銀はこの預金を通じて金融機関に決済サービスを提供していることが、「銀行の銀行」と呼ばれる理由の一つなんだ。

「決済」と日銀の関係

話を聞いていると、「決済」は日銀とも関係あるみたいだね。

「決済」は日銀の目的と密接に関係するんだ。日銀法には日銀の目的が二つ書いてあると以前説明したけど、覚えているかな？

「物価の安定」と「金融システムの安定」でしょ。

そのとおり。後者は、日銀

法に、「日本銀行は、……銀行その他の金融機関の間で行われる資金決済の円滑の確保を図り、もって信用秩序の維持に資する」と書いてあるんだ。

「信用秩序の維持」が「金融システムの安定」のことだったよね。そのためには決済がちゃんと行われることが大事なんだね。でも、なぜ日銀がその役割を担っているの？

えーと、日銀がお札を発行しているから？

そう。日銀が発行するお札は、それを渡せば決済が完了する。それから、金融機関同士の決済に使われる日銀当座預金も、安全な資金決済手段として重要なんだ。

お札と日銀当座預金という確実で安全な決済手段を提供できる日銀だからこそ、「資金決済の円滑」を確保する役割を担っているのね。



日銀ネット

るのね。

そのとおり。日銀では、「日銀ネット(注1)」というコンピュータ・ネットワークで金融機関との間をつないでいるよ。このシステムを通じて、日銀当座預金での金融機関同士の資金決済が行われている。また、日銀ネットでは、国債の決済も行われているんだ。システムの管理や運行を担っているシステム情報局や業務局のほか、多くの部署が協力して、日銀ネットの安全性や効率性の向上に取り組んでいるよ。

でも、一般の銀行だって、預金口座で決済サービスを提供しているわ。

確かにそうだね。銀行は個人や法人に決済サービスを提供しているね。また、銀行と銀行の間にも、資金や証券をやり取りする民間のシステムがあるよ。これら全体が日本の決済を支えているんだ。

決済に関する仕事は縁の下の力持ちだね。もっと知りたいな。

じゃあ、決済機構局の人を紹介しよう。決済システムに関する企画や、災害や障害が発生しても業務を続けることができるようにするための企画などを行っているところだよ。

(注1) 日本銀行金融ネットワークシステム

知子さんと学くんの 日銀訪問



【決済機構局】

先日、お父さんから決済の意味や日銀の役割の概要を教えてもらった知子さんと学くん。今回は決済機構局の宮内さんを訪問し、話を聞くことになりました。

はじめまして。神田知子と申します。こちらは弟の学です。本日はよろしくお願ひします。

宮内です。こちらこそよろしく。今日は決済システムと日本銀行の役割について説明しましょう。

「決済システム」ってなに？

決済システムって、私たちが毎日使っているものなのですね。

そうですね。そして、当たり前過ぎて意識されにくいのですが、経済活動は、「決済」が予定通り行われるという信頼の上に成り立っています。決済システムは家計や企業の経済活動を支える重要な社会基盤なのです。

決済システムって、具体的に何を指すのですか。

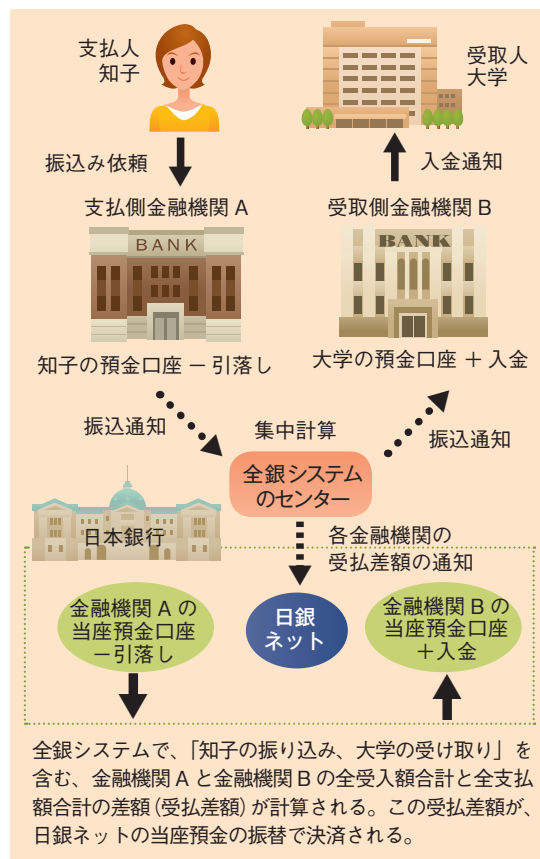
金融機関同士の資金決済など比較的金額の大きい決済を担う「大口決済システム」と、家計や企業の比較的小額の決済を担う「小口決済システム」があります。日本では日銀ネットが大口、全銀システム（注2）が

小口の代表例です。

例えば、知子さんが振り込んだ授業料も、全銀システムで、一日何百万件にも上る他の取引と一緒に、銀行ごとに受け取り分と支払い分に分けられ、その受け払いの差額分が、日銀ネットの当座預金で決済されているんですよ。

本当ですか！ なんだか急に日銀が身近になった気がします。

この他にも決済システムがあります。例えば、たくさんある決済を足し引き整理し、まとめて決済する準備を行う機関を清算機関と言いますが、全銀システム以外にも清算機関がいろ



「日銀ネット」の企画

いろいろあります。また、電子化された株式の名義書き換えを含め、証券の保有者が誰かを管理している証券保管振替機構も決済システムの一つです。金融機関の ATM をつないでいるオンライン提携網などもそうです。

決済機構局ではどんなお仕事をされているんですか。

日銀ネットの企画、民間の決済システムへの働き掛け、業務継続体制の強化などです。日銀ネットで決済している金額は、一日どれぐらいだと思いますか？

（注2）全国銀行データ通信システム

一兆円？

当座預金で約一〇〇兆円。

国債の決済で約八〇兆円です。

もの凄い金額ですね。

銀行間の資金・証券・外為などの取引の決済が最後に集

まってくるのでこの金額になります。だからこそ、安全面の手当てがしっかりなされ、稼働後、二〇年以上もの間、安定的に稼働し続けてきました。

また、決済に関するリスクを抑制する仕組みもどんどん取り入れてきました。例えば、金融機関が倒産したときに、証券は渡したのに代金をもらい損なうことがないようにする仕組みを導入しました。一日分の決済をまとめて最後に決済すると危険なので、一件ずつ、あるいはある程度まとめて日中に順次決済していく方法もそうです。

長く使い続けてコンピュータ・システムが古くならないですか？

情報処理技術の革新が進み、金融環境も変化しています。そこで、「新日銀ネット」として新たなシステムを構築するプロジェクトを立ち上げました。最新の技術を採用し、将来のサー

ビス内容の変化に柔軟に対応していくことや、他の決済システムとの接続性を高めていくことを狙いとしています。平成二十五年から段階的に稼働させていく予定です。

民間決済システムへの働き掛け

日本銀行自身の決済サービス改善することに加え、日本銀行以外が提供する決済サービスとの安全性に目配りをする 것도重要です。なぜなら、決済システムの特徴は「つながり」にあるからです。

誰かが資金を支払えなくなると、その人から受け取る資金を使って支払いをしようとしている人も支払いができなくなる危険があります。特に金融機関は、決済金額が大きく、余分なお金を抱えないようにしていることから、この危険にさらされています。

また、決済システム同士がつながっているため、あるシステムで故障や決済不履行が生じると、他の決済システムにも被害が及び危険があるのです。

すると、日銀がしっかりしているだけでは……。

それだけでは、決済システム全体の安全性は保てません。そこで、日本銀行では、重要な民間決済システムの制度設計、

リスク管理体制、運営状況を把握し、安全性や効率性を評価し、必要ならば改善に取り組んでいくよう働き掛けています。これを「オーバーサイト」と呼びます。

海外の中央銀行もオーバーサイトを行っているのですか？

はい、多くの中央銀行で実施されています。また、主要国の中央銀行が加盟するBIS（国際決済銀行）では、決済システムに対する国際的な基準を策定しており、日本銀行のオーバーサイトでもこの基準を活用しています。

日銀もその基準の作成に参画しているんですね。

もちろんです。今回の金融危機や決済システムを巡る環境変化に対応するため、国際基準の見直しが始まっています。また、日本銀行では、国際的な決済システムや決済関連サービスの提供者に対し、海外の中央

銀行と協調してオーバーサイトを行っています。

業務継続体制の強化

災害や障害が発生しても、決済に関する業務を継続できる体制が整っていないといけません。

具体的にどのような準備をしているのですか。

被災の状況ごとに継続すべき業務を決めています。いざというときには、災害対策本部を設置して、人手や連絡手段が確保できる体制を作っています。コンピュータ・システムが故障した場合の代替手段を用意し、訓練も実施しています。

金融機関や民間の決済システムに対しては？

考查（注3）やオーバーサイトの際に、業務継続体制を確認し、必要に応じて体制の強化を促しています。セミナーなどによる知識の普及に取り組み、金融市場参加者の体制整備も積極的に支援しています。

どうもありがとござい

ました。

（注3）日本銀行が、当座預金取引先である金融機関に立ち入り、その業務運営や経営の健全性を把握する活動